

ツマベニチョウだより (第5号)

◎ これまでに211本のギョボクの苗を貰っていただきました。

第1回分として株式会社サンメッセ日南様に31本(7月12日)、第2回分として同社様に100本(9月11日)、第3回分として宮浦地区の「木の会」様に80本(9月18日)の合計211本をそれぞれ植栽のために受け取っていただきました。

そして2回目と3回目には山下論様より戴いたお金で買うことが出来たハイビスカスの立派な苗を、30本と20本づつ付けて持って帰っていただきました。下の写真がその折りのものです(右のトラックのそばの人がサンメッセ日南の西川常務様、左の写真の左側の人が「木の会」の谷川様です)。

どちら様もツマベニチョウの誘引に一方ならぬお力添えを賜わっている方たちで、ここ2~3年のうちに是非とも宮浦地区に標を飛ばしたいと応援して下さっています。



◎ 天張りベテランの腕が大きくものをいいました。

上記の211本のギョボクの育苗の内訳は上妻隆康様が58本、井崎和幸様が51本、海老原秀夫が102本で、前記のお二人の活着率が90パーセント以上であったのに対し、私のは40パーセントそこそこで、植物栽培の力の差がはっきりと出ました。

自宅にはまだ60本ほどのギョボクの苗が残っていますが、そのほとんどは中村政義様の育苗によるもので、この方も効率のよい活着率となっています。

この方たちの友情あふれるお力添えがなかったら211本ものギョボクの苗をお贈りすることは出来ず、また当初の長渡達夫様のご紹介による11名の方々からの611本の穂木のご提供がなかったら、とてもこのような好成績は収めることができなかつたと、しみじみ思います。

まだ本年度の締めくくりには早いのですが、大方の寄贈を終えた今の時点で心からの感謝の言葉を申し上げる次第です。

平成10年9月22日

海老原秀夫